

1. 授業担当者（教科）：光村剛（地歴公民科、世界史）

2. 対象クラス：高校2年5,6組世界史選択者

3. 単元名・教材：ヨーロッパ世界の形成と発展（『詳説世界史』山川出版社）

単元：西ヨーロッパ世界の成立

副教材：グローバルワイド最新世界史図表（浜島書店、新版二訂）

4. 単元観・教材観：

ヨーロッパ世界の形成と発展について、地図上の民族移動、資料の読解や分析を通して考察し、その歴史的意義について思考するとともに、多面的に理解を深め、体系的な知識を身に付ける。

題材として扱う5世紀から15世紀のヨーロッパ社会は、生徒にとっては身近に感じることはできない時代である。当時の資料(文書史料、絵画資料など)の読解や分析を通して、現代社会との共通点や相違点を理解することによって、中世ヨーロッパの特色を浮き彫りにできると考える。

5. 単元の目標

中学校までの歴史教科書では扱われない範囲であるので、本単元に関する知識はほとんどない状態であると考え。まずは時代背景と基本的事項を正しく認識させ、文書資料や絵画資料を通じて中世ヨーロッパの生活についてのイメージを膨らませることを目標とする。

6. 単元の評価基準

A：基礎知識・技能	B：思考力・判断力・表現力	C：主体性・多様性・協働性
①ヨーロッパ世界の形成と発展（以下、本単元）について理解し、体系的な知識を身につけている。	③本単元に関する資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現している。	⑤本単元について多面的に理解し、意欲的に追求しようとしている。
②地図上において、諸民族の配置や国家の建設を正確に把握している。	④前後の時代と比較しながら、本単元の歴史的意義を適切に判断している。	⑥グループワークや発表などにおいて積極的に活動している。

7. 単元の指導と評価の計画

授業時数	主な学習内容	評価
3時間	ゲルマン人の移動と建国、封建社会の成立(封建的主従関係と荘園制)	A①、A②、B③
3時間	フランク王国の発展と分裂、ドイツ・フランス・イタリアの成立	A①、B④、C⑤
3時間	スラヴ人・ノルマン人の活動、中世都市の発展	A①、A②、B③、C⑤
3時間	ローマ＝カトリックの発展（本時）と聖職叙任権闘争	A①、B③、B④、C⑥

8. 本時の目標

中世ヨーロッパの封建制社会の中で、ローマ＝カトリック教会のプレゼンスが高まり、西ヨーロッパ全体に影響力を及ぼすような存在になったことを理解させる。また、その教会の中の変質・腐敗がその後の聖職叙任権闘争や宗教改革につながることを認識させる。

9. 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10 分)	【今日のテーマの確認】 中世ヨーロッパの二本柱は？ キリスト教の成立を復習する。 キリスト教徒がローマ帝国時代に爆発的に増えた理由は？ フランク王国発展の後ろ盾になったのは誰だったか？	これまでの学習を復習させながら、今日のテーマ「カトリック」を明示する。 パワーポイントで復習確認。 8C のヨーロッパがどのような状況におかれていたかをイメージさせる。	A①、B④
展開Ⅰ (10 分)	【発表】 それぞれが事前に調べてきた「カトリック」の特徴について発表させる。	ネームカードでランダムに数名あてて発表させる。発表であがったことを黒板に板書する。	C⑤、C⑥
展開Ⅱ (20 分)	【講義】 5 世紀から 9 世紀までのローマ＝カトリック教会を概説する。 【講義】 聖職位階制度（ヒエラルキア）について解説する。hierarchia の意味。	パワーポイントスライドで解説。手元にプリントあり。 資料集を参照しながら解説。	A①、B③、B④
展開Ⅲ (5 分)	【問題提起】 大小たくさんの封建諸侯がいて、それぞれの「荘園（manor）」がある中で、人々の生活のルールとなっているのは何か？	中世ヨーロッパの生活スタイルをイメージできるような資料を電子黒板で提示して考えさせる。	B④、C⑤
まとめ (5 分)	【次時への予告】 聖職叙任権闘争へ。人々のもっとも身近にある「教会」が領主の「荘園」内にあるということは？	「国家」とは「1 つの規則のまとまり」であったことを確認する。	A①、B④

10. その他